

令和5年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、建学の精神(「産業界の第一線に貢献する人材の育成」)と校訓(「創造」「躍動」「貢献」)を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

未来に向けて、生徒・職員「心一つ」にして新たな学校づくりをめざしていく。本校では、生徒一人ひとりの人間力向上を真ん中に据えた教育を実践し、教職員は、生徒たちに熱い思いをもって指導し、一人ひとりに寄り添いながら、次の3つの心を育てていく。

- ・向上心:夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
 - ・自律心:社会的マナー・服装等を整え、清く正しい生活をめざす心
 - ・優しい心:人との絆を大切にし、人の心の痛みや苦しみを思いやれる心
- 本年度のキャッチフレーズとして「心一つにみんなで作る佐賀学園」を掲げ、生徒一人ひとりの「人間力」を高め、それらが大きなまとまりとなることで、本校の飛躍につなげていきたい。

◎日々の取組み
(授業)
・教職員が日々自己研鑽に努め、授業のねらいを定め、板書計画や発問等を準備した上で、分かる授業・生徒を惹きつける授業を実践する。電子黒板の積極的活用はもちろん、本年度から導入する「生徒1人1台タブレット」も有効に活用しながら、新時代の教育の在るべき姿を模索する。

(部活動)
・部活動加入率を高め、その充実・強化について更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを目指す。更なる高みを目指し努力する姿勢こそ生かす力につながることを伝えていく。

(キャリアデザイン)
・週1時間の「総合的な探究の時間」において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。学年ごとに、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界の第一線に活躍する方の講話などを年間計画に織り込み、様々な実践に取り組む。また、成人年齢引き下げについても、生徒たちの意識啓発を図る。

(人権・同和教育)
・人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心や、障がいのある方・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け入れる心を育てていく。
(SNSに關しての指導)
・生徒の安心安全を守るために、ネット社会の危険を周知し、SNS等の利用について常に注意喚起をする。スマートフォンなどを使って、不適切な情報発信をすることで人を傷つけ、逆に、自分が誹謗中傷を受けたり、誤って出会い系や犯罪に誘うサイトにつながることで、大きな被害を受ける可能性があることを深く受けとめさせる。

(学校開放講座・地域交流の実践)
・保護者や地域の方向けの、本校職員による「大人の英会話」を本年度も開講する。
・情報処理科・商業科の課題研究の紹介、販売実習の一環として、本年度も地域の方に門戸を広げる「佐学マルシェ」を実施する。
・吹奏楽部はコンクールだけでなく、小中学校・特別支援学校に出向いて交流演奏を行う。
・生徒会やJRCを中心に、積極的に地域へ向かい、ボランティア活動を行う。

4 前年度の成果と課題

- ・生徒募集と広報活動(PR活動)の一体強化(普通科の進学実績向上、情報処理・商業科の方向性など)
- ・1人1台タブレット導入・分りやすい授業の実践(できることから活用に取り組み、同時に保管についても心砕く)
- ・部活動の充実・高いレベルでの文武両道が図れるよう、部顧問が学力の維持向上を意識することが必要である。そのために成績高等部(特別進学科)をどう発展させるかが鍵となる。
- ・「キャリアデザインタイム」の充実・成人年齢引き下げに伴う意識啓発、進路指導部主催の進路ガイダンスとの連携。
- ・進路指導部と第3学年連携の強化・国公立大学合格増、私立大学理一般試験対応の充実、高い資格を有した生徒を事務職に送り出すこと
- ・基礎学力要請・LTL及び朝読書の時間の充実
- ・優しく思いやりのある心の育成・不登校傾向の生徒の学級復帰支援、SNS等の問題事案へ対応、人権尊重意識の醸成
- ・生徒・職員一体となった学校づくり・校則の見直し、学校の規律を保ちながら生徒の意見を反映させていく

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度のキャッチフレーズ及び重点目標(「人間力の向上」)を生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標の「日々の取組み」について、職員がよく取組み、成果を挙げているか。	・学校評価アンケートにより、本年度の重点目標(「人間力の向上」)を知っている生徒・保護者の割合を40%以上とする。(昨年度 生徒23%、保護者20%) ・SNSを使った問題事案(他者への誹謗中傷)や人権侵害にあたる発言をするといった事案を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、職員全体が中学校説明会やオープンスクールにおいて、十分にそれをふまえて学校PRを行い、生徒募集に反映できたか。	・全校集会で生徒に対して、学校通信を通して保護者にも、本年度のキャッチフレーズや重点目標及び3つの心を随時伝える。 ・学校の教育活動をワンバーで示したランドデザインを改訂し、生徒募集に活かす。 ・「日々の取組み」について、校長は担当分掌の部長や学年主任と協議し、進捗状況を確認する。 ・校長は授業見学をし、それを通じた職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会を開くよう促す。 ・校長は、日常の部活動を視察することに心がける。 ・外部機関や地域との連携を積極的に図る。また、校長は担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。	B	・重点目標の認知度について、保護者認知度が若干高まったものの、全体的には例年並みであった。 ・ランドデザインを作成するのが目的ではなく、これをいかにPRに結び付けるか、職員に意識付けさせるのが課題である。 ・部活動は定期的に活躍しており、特に珠算電卓部の活躍は顕著であった。 ・今年度もSNSに関する指導で大きな課題を残した。予防的指導を年度当初から積極的に実施しなければならない。 ・吹奏楽部の交流演奏や「佐学マルシェ」は非常に好評であり、今後も継続・充実させるための取り組みが必要である。
	生徒募集(広報活動)	・募集定員を確保できたか。 ・本校の魅力や特色を中学生、保護者及び中学校に正しく伝えられたか。 ・広報と募集が一体化し、パンフレット・HPの充実、PRビデオ・ランドデザインの作成及び活用が図れたか。 ・オープンスクール・佐学セミナーの参加人員は増えたか。 ・全職員が一体となって募集活動が行えたか。	・受験者数、推薦115名、専願60名、併願80名を目標とし、前年255名を確保する。 ・本校を身近に感じてもらえるよう、従来のパンフレット、チラシ等に加えて、SNSを活用した情報発信を行う。 ・全職員による中学校及び塾訪問を行う。	・前同様に臨まないよう、事業の検証・効果の確認を行う。 ・募集関連事業の実行委員会に限らず、職員から斬新なアイデアを広く求める。 ・立地の良さ、進路・検定取得実績、生徒一人一人に寄り添った教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。また、普通科のコース改編については、各コースの特色をアピールする。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度などの充実したサポートについて周知する。	B	・推薦95名、専願61名、併願77名、合計233名の入学予定数となり、昨年度を大幅に下回り定員も確保することができなかった。 ・中学校訪問の回数を増やし、オープンスクールへの参加の呼びかけや、佐学セミナーのPRを行ったが参加者の増加にはつながらなかった。 ・来年度は中学校3年生が県内だけで200名ほど減少するので、早急な対策が必要と考える。佐賀学園にしかない強みを作りだし、アピールできるようにしていきたい。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や架電者の立場に立ち、正確かつ迅速な対応を心掛ける。 ・優先順位、時間管理を意識した業務遂行を実践する。 ・気持ちの良い挨拶の励行を継続する。	B	・お客様来校時や電話口での相手の気持ちを慮った対応、また気持ちのいい挨拶は励行できている。 ・各自のルーティンワークは優先順位を意識できているがαスポット対応では経験不足が否めない。 ・次年度から事務部門は減員となるため、現在の業務+αの対応力が要求されることとなる。これまで以上に各自の仕事を質を向上させる必要がある。
	職員の指導力向上	・電子黒板やタブレットを活用した授業が広がったか。 ・学習指導要領の改訂や、社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。 ・定期考査(中間・期末)の問題は充実したか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各分掌で企画する。 ・教育センター研修講座に3年間で1回以上参加する。 ・教員それぞれ、電子黒板、タブレットを活用した授業を意識して実践する。 ・各教科で研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。	B	・職員研修会を各分掌で企画することができた。 ・教育センター研修講座に積極的に参加することができた。 ・11月に公開授業週間を実施し、教科にこだわらず、授業参観をし、授業改善に役立てた。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立 ・「分かる授業」「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・電子黒板・タブレットを有効的に活用する。 ・基礎学力定着のための補習の実施による学力の定着を目指す。 ・3年生に対する総体後の勉強会、夏休期中の進学対策と就職対策の学習会や小論文、志望理由書、書類の書き方等の指導を行う。 ・各学年に対する進路講話、生徒のデータの分析、入試と企業との研究を行い、進路指導部と学年間で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、キャリアデザインタイムを計画する。	B	・LTL時間を中心に、タブレットを有効活用した、視覚的に分かりやすい授業が増加した。 ・全教科が授業評価の項目ごとの達成度が85%以上を達成できなかったため、各教科を積極的に開き、授業の改善点を研究し、実践する。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的に行動に反映されたか。 ・進路を実現するための基礎学力が身についたか。 ・生徒の覚悟ある進路実現に繋がったか。	・学年に応じた充実した進路ガイダンス等を計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・就職内定率100%、大学進学合格率アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーの開催や個別指導、また、基礎学力定着のための補習の実施による学力の定着を目指す。 ・3年生に対する総体後の勉強会、夏休期中の進学対策と就職対策の学習会や小論文、志望理由書、書類の書き方等の指導を行う。 ・各学年に対する進路講話、生徒のデータの分析、入試と企業との研究を行い、進路指導部と学年間で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、キャリアデザインタイムを計画する。	B	・各学年の進路ガイダンスは、就職講座や講演、アクティブラーニング等、各学年の実態に応じて充実した内容で計画的に実施できた。 ・個々の志望に応じた指導のおかげで3年生の進路決定率が高かった。 ・大学進学希望者の増加に伴う1、2年次からの大学受験のための学力の定着と小論文の対策 ・クラッシーやスタディサプリの活用と模試等のデータを活用した指導の研究につなげる。
	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他者に対する思いやりの心を育む。 ・制服を正しく着用する。 ・SNSによるトラブルがないよう注意する。SNSの利用については、23時から6時までは控えさせる。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・全校集会、学年集会を通して、内面的指導を充実させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を控えさせる。	B	・公共利用マナーの向上、他者を思いやる心の育成に力を注いだ。 ・自転車マナーアップ推進校として、自転車安全五則を基に、安全運転の啓発に努めた。 ・SNS利用についての更なる意識向上に努め、生徒への内面的指導を充実させる。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。 ・感染症対策に各自取り組んでいるか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化意識を向上させる。 ・校内の感染症対策用品を充実させる。	・美化コンクールを実施する。 ・ペットボトルの分別を徹底する(ラベルを剥がし、キャップは別に回収) ・全員清掃の時間を設ける。 ・清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。 ・生徒保健委員会の活動として校内のアルコール等を点検、補充する。	B	・清掃活動やごみの分別は積極的に取り組んでいるが、一部の意識が低く徹底できなかった。環境美化コンクールを定期的に開催し、清掃活動の意識づけが必要である。 ・今年度はインフルエンザの感染者が多かった。感染症対策の意識づけが必要である。
特定課題	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身に付け、人間性を高めることができたか。 ・学校の活性化につながる事ができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任、顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。	・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。	A	・部活動加入も伸びてきている。また、全国大会への出場権を獲得し、県内にとどまらず、全国の舞台への躍進も期待できる。 ・進路保障についても各顧問が責任を果たしており、日頃からの授業への取り組みに対する指導が繋がっていると考えられる。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻る事ができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に積極的に取り組み、達成感を得る	・職員の連携を密にし、保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させるための安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようサポートする。 ・O-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。 ・発達障害等を抱える生徒への対応についての研修会を行う。 ・学級担任・教科担当者との連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の向上を図る。 ・学校行事では相談室独自で参加できるような内容を企画する。	B	・相談室登校の生徒は少なかったが、相談室登校でなくてもHRや休み時間を相談室で過ごす生徒がおり、学級づくり・居場所づくりがさらに重要である。 ・保護者のSCの利用も多く、本人と保護者の両方がカウンセリングを受けることで良いほうへ向かったケースもあった。 ・学習については教科の偏りがある。主要教科などはタブレットでの学習が効果的ではないかと考える。 ・教室復帰については課題が残るが、生徒が安心して学校生活を送れるための相談室や学校の在り方を今後も考えていきたい。
	マナー指導	・校内外でのマナー、交通マナー、挨拶などの規則・ルールが守られているか。	・進路決定や外部からの見た生徒の立ち振る舞いのマナー向上を目的とする。	・目頃から自記り、気配りをしながら注意指導し、金曜日に行うマナー指導を通して体得させる。	B	・服装面での指導は改善傾向にあるが、スマートフォンの使用で指導を受けるケースがあった。校内でのルールを再度啓発し、正しい利用スキルを習得させたい。
	生徒会活動	・校内外の問題を自主的に考え行動し社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・生徒指導部職員とともに校則の見直しを協議する。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を超えて連携を図る。	A	・学校を動かしているという自覚を持ち、学校を良くするための働きかけができるようになった。今後は、組織として成熟できるような指導が必要だと考える。
キャリア教育・LTL	キャリア教育・LTL	・LTLの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通して、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・LTL及び基礎力診断テストを活用して、GTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・生徒への定期的な面接や進路ガイダンス、諸検査を通じて自己の適性を知り、日常の教育活動の中で自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・3年次の進路決定を目指した取り組みの際には個々にあった適切な面接を行い、卒業後の進路変更や早期離職につながらないようにすることを目指す。	・LTLの教材作成から教科毎にねらいを設定し、定着させたい学習内容を常に精査し、学力向上に直結する課題作成に取り組む。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出来る体制づくりに取り組む。 ・確認テストや基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図りたい。	B	・クラッシーを導入したことによって、生徒の課題への取り組み状況やテストの点数がその日のうちに把握でき、個別の指導がしやすくなった。GTZの値がD3ゾーンの生徒の基礎学力の向上にはつながっているものの、内容については改善の余地がある。 ・長期休業中のセミナーへの参加者が少ないため、教科担当や担任から、学力の必要性をしっかりと伝えてもらうなどの声掛けが必要である。 ・2年生からセミナーへの参加意欲が低下している。セミナーの目的、計画等を記載したシラバスを作るなどの工夫が必要である。

6 総合評価

- ・電子黒板やタブレットを活用した授業が定着し、魅力ある授業づくりに向けて職員の意識は高まった。
- ・本校のPR材料である部活動は、伝統ある部活動が安定した活躍を残した。特に珠算電卓部は個人・団体で全国レベルの成績を取った。新しい部活動も、ライフル射撃部やゲームクリエイター部、ダンス部が幅広い活躍を見た。
- ・本年度の進路実現については、進学・就職ともに一定の成果を残した。進学では熊本大学や佐賀大学の合格、就職ではJR九州や佐賀銀行等への内定を勝ち取ったことは評価できる。
- ・3年目を迎えた商業科の「佐学マルシェ」は内外の評判も高く、地域と連携した取り組みができたのは成果であり、次年度以降も継続・発展させなければならない。
- ・キャリア教育の面では、学年で取り組んだ「キャリア・デザイン」が充実し、進路指導部のガイダンスも充実してきた。
- ・SNSに関する問題等については、予防教育の徹底や人権教育の更なる充実を図る必要があった。

7 次年度への課題・改善策

- ・入学希望者増に向けた取り組み強化(普通科の大学進学実績向上、情報処理・商業科の方向性など)
- ・効率的な教員研修による指導力の向上、ハラスメント防止教育の実施
- ・1人1台タブレットの更なる活用(Classi、スタディサプリの有効性の確認)
- ・大学進学・就職に向けた小論文、指導担当者のシステム化
- ・優しく思いやりのある心の育成(SNS問題等への理解と対応・予防教育の実施、人権尊重意識の醸成)
- ・校内美化を徹底し、清潔感のある「場・雰囲気」を作る。
- ・部活動の更なる活躍と在り方の検討(科学的なコーティング、休養とのバランス)
- ・業務効率化の推進(ペーパーレス化、デジタル採点の導入、不要な業務の削減)